

素案からの修正箇所を赤字にしています。

活力創造都市“ひろしま西風新都” 推進計画2013(案)



平成 25 年 (2013 年) 〇月

広 島 市

目次

はじめに ～西風新都の都市づくりの推進に向けて～

1 「ひろしま西風新都」とは	1
2 都市づくりの経緯	1
3 都市づくりの課題	2
4 都市づくりの全体計画の改定	3
5 改定計画の基本的事項	3

第1部 ひろしま西風新都都市づくりマスタープラン

第1章 都市づくりの基本構想

1 都市づくりの目的	5
2 都市づくりの基本理念	5
3 都市機能	6

第2章 都市づくりの枠組

1 都市づくりのスケジュール	7
2 計画フレーム	7

第3章 都市づくりの基本方針

1 都市構造の形成方針	9
2 都市機能の充実・強化の方針	10
3 丘陵部の開発・市街地の整備の方針	12
4 各計画開発地区（丘陵部）の土地利用方針	13
5 交通基盤の整備方針	16
6 公共公益施設の整備等の方針	18
7 環境保全の方針	19
8 景観形成の方針	20

第4章 都市づくりの推進体制

1 基本的な役割分担	21
2 企業誘致の推進策	21
3 時代の変化への対応	21

第2部 ひろしま西風新都都市づくり推進プログラム

第1章 重点施策

1 都市内交通の円滑化23
2 防災機能の充実・強化26
3 低炭素都市づくり ～スマートコミュニティの推進～27
4 計画誘導地区(平地部)のまちづくりの促進29
5 企業立地の促進31

第2章 都市機能の充実・強化に資する諸施策34
------------------------------	---------

用語解説37
-------------	---------

本文中に*を付した用語について、掲載頁順で解説しています。



はじめに ～ 西風新都の都市づくりの推進に向けて ～

1 「ひろしま西風新都」とは

広島市の中心部から北西約5～10kmの位置に広がる丘陵地では、広島市のデルタ市街地とほぼ同じ規模(区域面積4,570ha)を有する「ひろしま西風新都」の建設が進んでいる。

西風新都の都市づくりは、地域住民、民間開発事業者及び広島市が適切な役割分担と協力関係のもとに丸となって取り組んでいる大規模プロジェクトであり、都市づくりがスタートして20数年を経て、現在では「住み、働き、学び、憩う」という四つの機能を備えた魅力ある都市に成長している。区域内には山陽自動車道五日市インターチェンジと広島自動車道広島西風新都インターチェンジを有し、広島市の中心部とは、広島高速4号線により約15分で結ばれており、軌道系公共交通機関である新交通システム「アストラムライン^{*}

」の存在もある。こうした都市機能の集積や優れた立地特性など、高いポテンシャルを有する西風新都は、「世界に誇れる『まち』」を目指している広島市において、都市の活力を生み出す重要な地域である。

「西風」にのせて広島市の都心部へ、ひいては大阪・東京へと新風を吹き込む都市になるようにとの期待を込めてつけられた名称のとおり、さらなる成長と発展により西風新都から新風を起こし、広島市のみならず、広島広域都市圏^{*}や中四国地方をも牽引する、そのような活力あふれる都市にしていく必要がある。



〔西風新都位置図〕



2 都市づくりの経緯

西風新都を構成する現在の安佐南区沼田地区、佐伯区石内地区は、昭和40年代、民間開発事業者が土地の買収を進めるなど開発圧力が高まったが、道路、上下水道などの関連公共施設の未整備を理由に、広島県が昭和50年に開発を凍結した。その後、広島市が、都市づくりの全体計画として、昭和61年に「広島西部丘陵都市建設基本計画」、平成元年に「広島西部丘陵都市建設実施計画」(以下「建設実施計画」という。)を策定し、開発の凍結を解除して、計画的な都市づくりを進めていくこととした。

〔西風新都の都市づくりの変遷〕

昭和63年
(1988年)



平成20年
(2008年)



平成2年の大塚業務地区等の開発を皮切りに本格的な都市づくりをスタートさせ、平成6年のアジア競技大会*開催に向けて、道路や上下水道等の根幹的な基盤整備が進み、平成6年には本通駅から広域公園前駅までのアストラムラインが営業を開始した。平成13年には広島西風新都インターチェンジ及び広島高速4号線が供用され、広島の都心や広域へのアクセス性が飛躍的に向上した。

平成20年には建設実施計画を「ひろしま西風新都都市づくり推進プラン」(以下「推進プラン」という。)へと改定し、これに基づいて都市づくりを進めてきた。

3 都市づくりの課題

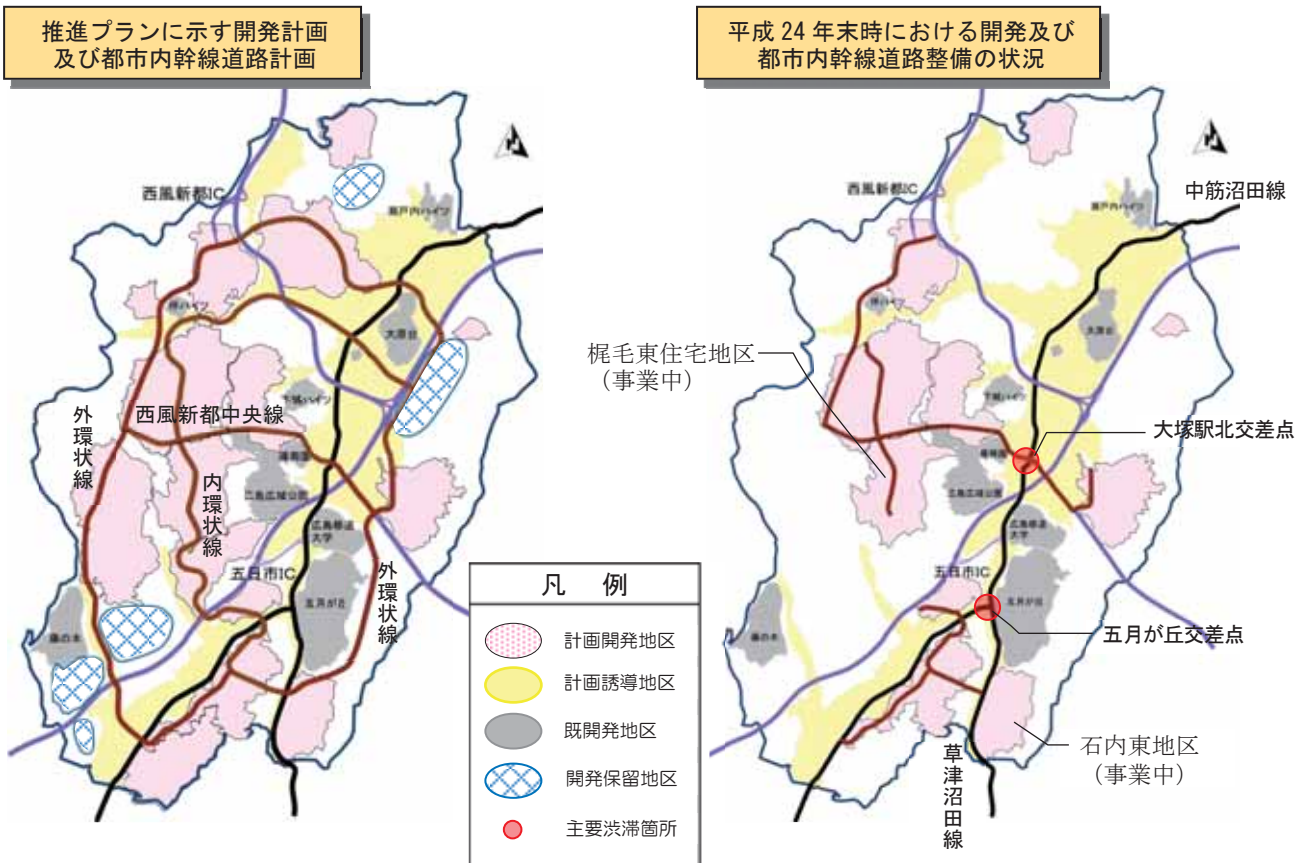
建設実施計画策定後のバブル経済の崩壊とその後の長期にわたる景気の低迷という社会経済情勢の変化の影響を受け、都市づくりは当初のスケジュールどおり進まなくなったため、平成20年に建設実施計画を推進プランへ改定し、一部開発地区の土地利用計画の変更や目標人口の下方修正などの限定的な見直しを行った。



[整備の中断した幹線道路]

しかし、推進プランへ改定以降も、リーマンショックなどの社会経済情勢の大きな変化があったことから、丘陵部の民間開発は依然順調に進んでいるとは言えない状況にある。開発時期との整合を図りながら整備してきた都市内幹線道路も、細切れに分断されたままネットワーク機能が発揮できておらず、中筋沼田線や草津沼田線などの幹線道路に交通が集中し、大塚駅北交差点や五月が丘交差点等で朝夕を中心に慢性的に渋滞が発生している。

このように、民間開発が順調に進むことを前提としたこれまでの都市づくりの進め方が今の低成長時代には合わず、課題が顕著になっている。



注) 事業中以外の計画開発地区は完了済

また、推進プランは、マスタープラン*的な都市づくりの方向性に関する記述が中心で、具体的な施策やその進め方が示されておらず、民間の投資意欲を喚起する計画となっていない。

さらに、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を教訓としつつ、昨今の少子高齢化の進展を踏まえた新たな視点からの都市づくりが必要となっている。

4 都市づくりの全体計画の改定

(1) 全体計画改定の目的

広島市が、圏域全体の活力を生み、さらには中四国地方の発展を牽引する都市として「世界に誇れる『まち』」となるためには、二つの高速道路インターチェンジやアストラムラインなどの充実した都市基盤に恵まれた、開発ポテンシャルの高い西風新都をより一層活用していく必要がある。

このため、都市機能の強化、産業の振興、快適な居住空間の形成などの視点に立って、民間の投資意欲を喚起するよう西風新都都市づくりの全体計画を抜本的に改定することとした。

これからは、この新たな計画の下、住民、企業、大学と行政が一体となって、西風新都の都市づくりを計画的かつ着実に進めていく。

(2) 改定に当たっての基本的考え方

民間の開発や企業立地に対する意欲を喚起するため、次のような視点で改定計画を策定する。

- (1) 具体的な施策の実施方法を定めることにより、都市づくりの進め方を示す。
- (2) 西風新都の価値をより高めるという考え方のもと、次のことを計画に盛り込む。
 - ・ 時代に対応した新たな機能
 - ・ 都市づくりをリードする先進的な取組

5 改定計画の基本的事項

(1) 改定計画の名称

改定計画は、西風新都が、活力にあふれ、先進的な取組の拠点となることを目指し、その名称を「活力創造都市“ひろしま西風新都”推進計画2013」とする。

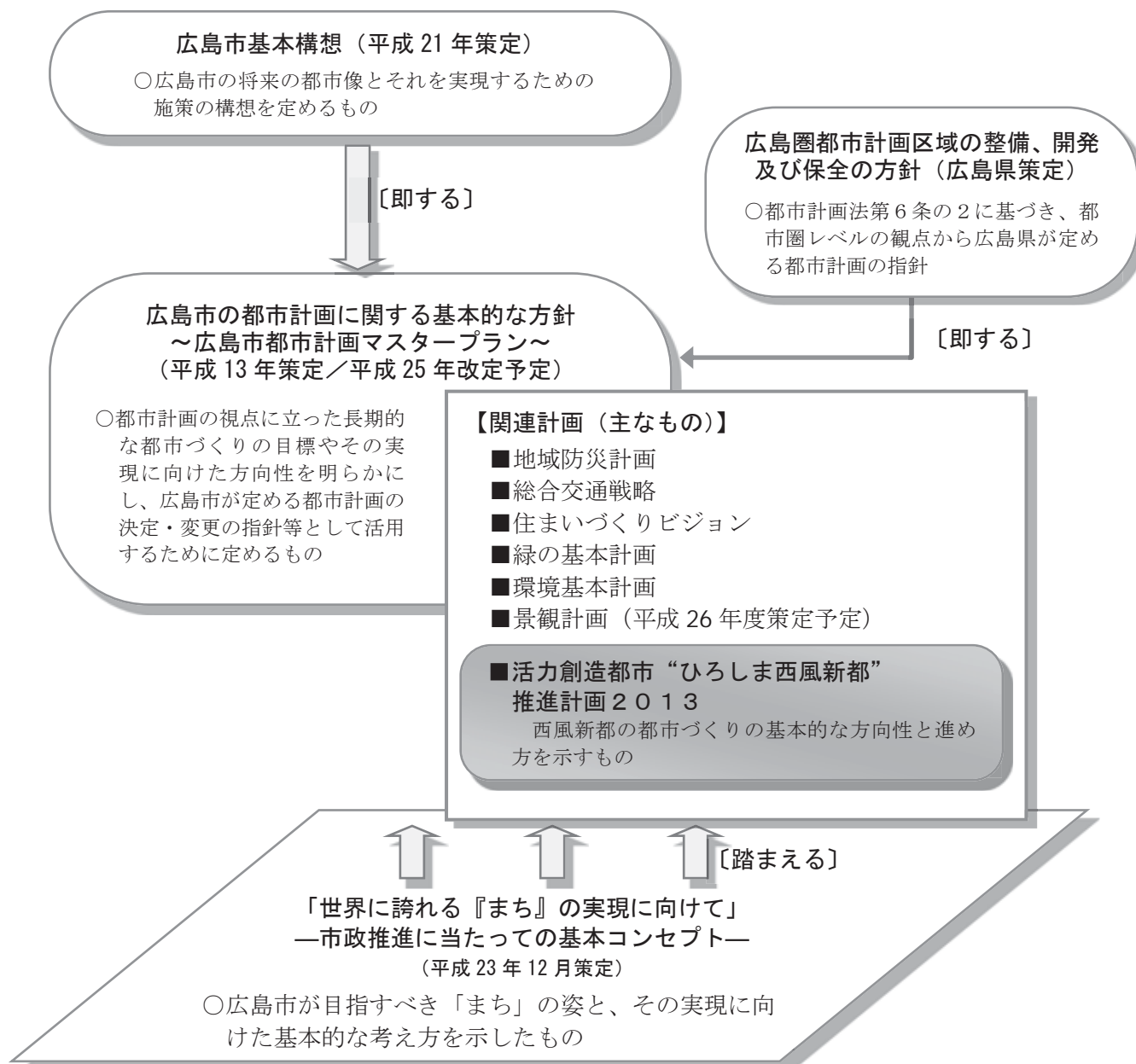
(2) 改定計画の対象地域

計画の対象は、安佐南区沼田地区及び佐伯区石内地区（面積約4,570ヘクタール）の下記の区域とする。

- ・ 安佐南区沼田町大字大塚、沼田町大字伴、大塚西、大塚東、伴東、伴南、伴北、伴西
- ・ 佐伯区五日市町大字石内、五月が丘、藤の木、石内上、石内南、石内北

(3) 改定計画の位置付け

「活力創造都市“ひろしま西風新都”推進計画2013」は、「広島市の都市計画に関する基本的な方針～広島市都市計画マスタープラン～」の関連計画の一つであり、「世界に誇れる『まち』の実現に向けて一市政推進に当たっての基本コンセプト」を踏まえながら、西風新都の都市づくりの基本的な方向性や具体的な進め方を示すものである。



(4) 改定計画の構成

改定計画は2部構成とし、都市づくりの基本的方向性などを示すマスタープランを第1部、都市づくりの具体的な施策を示す推進プログラムを第2部とする。

第1部 ひろしま西風新都都市づくりマスタープラン

第1章 都市づくりの基本構想

1 都市づくりの目的

優れた立地を生かし、既に快適な居住の場、貴重な産業集積の場となっている西風新都を、さらに市民が生き生きと暮らし、働き、集うような活力にあふれた拠点とすることにより、広島広域都市圏や中四国地方の成長・発展を牽引する。



2 都市づくりの基本理念

(3) 先導

ライフスタイル、技術、文化など様々な分野で新たな価値をつくりながら、広島広域都市圏さらには中四国地方を牽引する“先導”的な「まち」とする。

(2) 推進

多種多様な活動でヒト、モノ、カネが循環することにより、エンジンのように“推進”力を生み出す「まち」とする。

(1) 誘引

多種多様な目的(居住、買物、ビジネス、勉学、スポーツなど)を持った人々を広域から“誘引”する魅力的な「まち」とする。

